

厚生労働省 令和 7 年度 介護現場の生産性向上に関する
普及加速化事業一式

ビギナーセミナー発表資料
「施設環境の改善と手順書作成」

【デイサービスつどい】 嶋尾 重光

姫路医療生活協同組合 デイサービスつどい



大規模型通所介護費（Ⅰ）

定員 45人

平均介護度 2.34

要介護3以上 40.8%

平均年齢 86.3歳

取組の目的

当施設では、人が足りない、時間が無いと感じる状況が発生しており、その結果、スタッフの意欲低下という悪影響が生じている。

原因として、**死角の多い施設環境とスタッフ教育の時間が十分取れない**ことを考えた。

施設環境の改善と、業務マニュアルを整備することで業務の効率化を図ることを目的とした。

2. 取り組みの流れ



取り組み全体の流れ

(取組手順)

(実施内容)

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう	・実行担当者を5名を選定 ・担当者会議を行い、課題として以下の2点を確認 ①施設の環境として、フロアが2フロアに分かれており、死角が多く、見守りが行いにくい ②行える業務にスタッフ間で差があり、一定のスタッフへの負担が大きい ・実施事項として、 ①死角を減らす環境作り、②フロアリーダー業務マニュアル作成を選定
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう	
	手順 3	実行計画を 立てよう	
D	手順 4	改善活動に 取り組もう	・フロアの位置を移動し、L字型の1フロアに変更 ・フロアリーダーマニュアルを作成 ・マニュアルを使用してリーダー業務に取り組むスタッフ教育を行う
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう	・死角が少なくなったことで、少ないスタッフで見守りが行えるようになった ・リーダー業務が明確化し伝達が行いやすくなったことで、リーダーを行えるスタッフが増えた
A	手順 6	実行計画を 練り直そう	・依然、スタッフの立ち位置によって死角になる場所は生じる ・他の業務についてもマニュアルを作成していくことが必要

手順 1 : 改善活動の準備

- 組織全体での合意形成

統括責任者、リーダー、副リーダーが担当スタッフを選出

⇒生産性向上の取り組みについて、部会で全職員に説明

⇒担当者会議にて課題抽出

①死角を減らす環境作り、②リーダー業務マニュアル作成に取り組むことを決定

⇒実施課題、実施する意図について、全職員に説明

手順 1 : 改善活動の準備

• 実施体制の整備

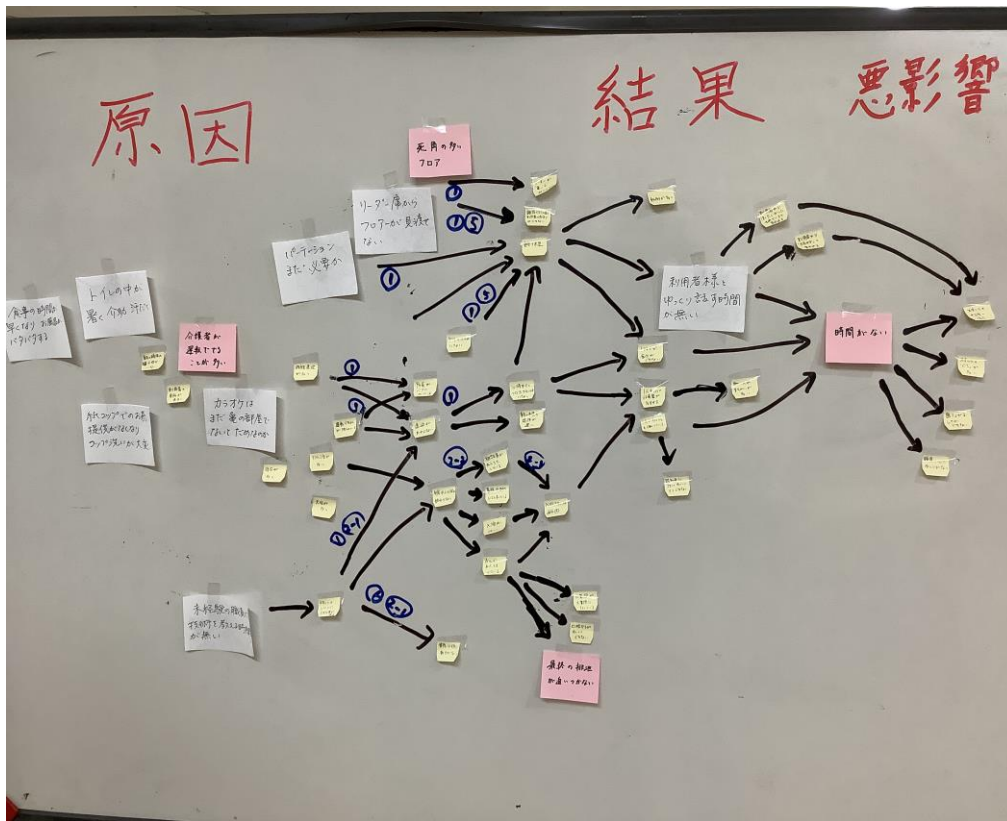
生産性向上の担当スタッフとして、統括責任者、所長(プロジェクトリーダー)、理学療法士(副プロジェクトリーダー)、看護師1名、介護職1名、を選出

①死角を減らす環境作り➡ 所長中心に変更方法を検討。全職員協力して、ベッド、テーブル等の移動を行う

②リーダー業務マニュアル➡ 実際にリーダー業務を行っているスタッフの参加が必要であり、副リーダー、フロアリーダー3名(介護職)でリーダー会議を行う

当初は、選定した担当者と話し合いを進めたが、課題を抽出していく上で、課題ごとにメンバーの再検討が必要となった

手順 2 : 現場の課題の見える化



ワークシート2「課題解決の道筋の文章化」

深堀原因 経験の浅い職員に対する教育の時間が取れないこと に対し、

業務改善の取組 (打ち手)	業務マニュアル、動画の作成し、視聴する	を実施することにより
------------------	---------------------	------------

好転換された
深掘原因

教育時間が取れないことが補われること

となり、

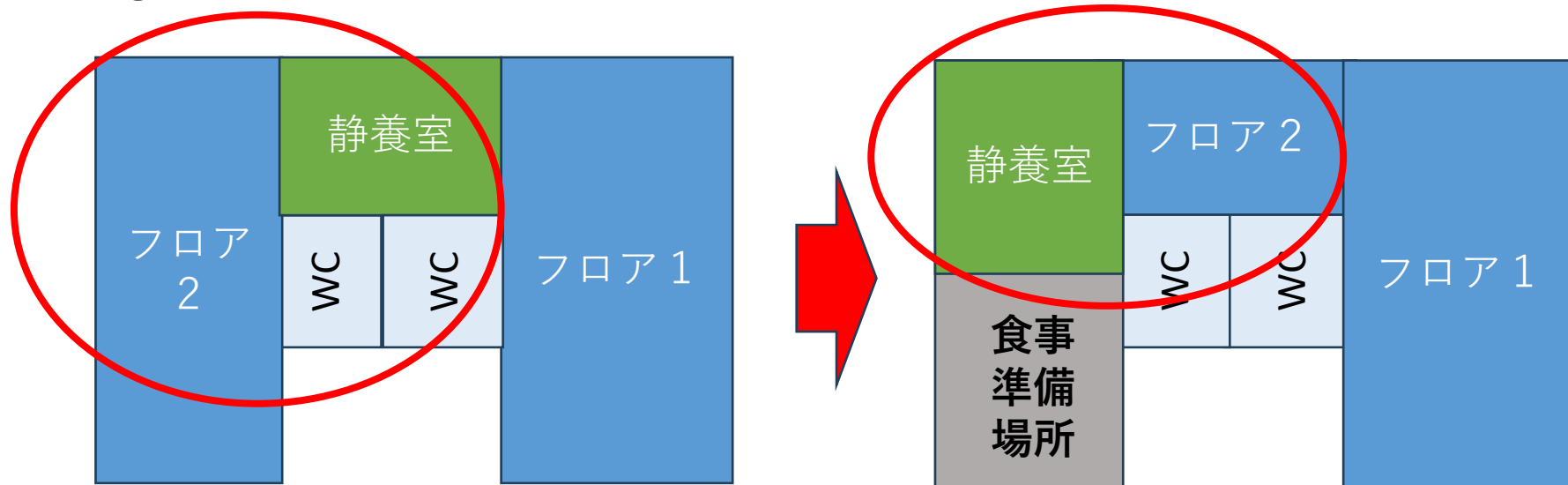
原因	スタッフのレベルの差	という問題が解消・軽減され
----	------------	---------------

結果	人が足りない、時間が無いと感じる状況	がなくなり、
----	--------------------	--------

悪影響 スタッフの意欲の低下 の改善が期待できる。

手順3：実行計画の立案

① 死角を減らす環境作り



- ・ 2フロアから、L字型の1フロアに変更
- ・ フロア 2 の静養室にはベッド2台、カーテンレール設置。

手順3：実行計画の立案

②フロアリーダーマニュアル作成

・フロアリーダー会議を行い、リーダー業務の内容、優先順位等を統一化 ⇒リーダーマニュアル作成

目的

- フロアリーダー育成に活用し、一定の経験を積めば、どのスタッフもフロアリーダーが行える
- 全スタッフがフロアリーダーの業務の内容を理解することで、スタッフの協力体制を強化し、業務の効率化につなげる

リーダー業務に関して、スタッフ間で取り組む意識や方法に相違があり、業務を引き継いでいく上でも課題となっていた
まずは、リーダー業務そのものを統一していく必要があった

手順4:改善活動の取組

1. 部会にて取り組みについて、全スタッフに説明
2. フロアの変更点を話し合うを行う。
3. フロアリーダー会議を行い、業務内容を統一化
4. 法人内他施設から、リーダー業務マニュアルを入手し、内容、書式等参考にする
5. リーダーマニュアル作成
6. 全スタッフにマニュアル配布
7. 実際にマニュアル使用してリーダー育成を実施

手順5:改善活動の振り返り（取組の成果）

1. 環境面の変化

- ・フロアを2フロアから、L字型の1フロアに変更⇒死角減少

2. 教育

- ・リーダー業務マニュアルを作成したことで、業務の統一化

3. 働くスタッフの余裕の時間を作る

- ・1と2を行うことで改善してきている

4. スタッフや利用者満足度を上げる

- ・お菓子づくりや外出活動ができていきている

手順5:改善活動の振り返り

①死角を減らす環境作り課題点

- ・フロアの移動に際して、移動前よりフロア面積が小さくなるため、通路や歩行器の置き場所が確保ができるか不明確だった

- ・ベッドやカーテンレールの設置場所をどうするか、検討が必要だった

⇒実際に移動してみて可能かどうか判断した

- ・移動後、移動前のフロアで過ごされていた利用者からクレームが出ないかという不安があった

⇒クレームの可能性のある利用者には、移動前に説明し、了承を得た

手順5:改善活動の振り返り

②フロアリーダーマニュアル作成

- ・スタッフ間で業務の方法、業務に対する意識が異なっていた
⇒会議にてスタッフの意見を聴取し、業務の優先順位、内容等を統一していった

- ・マニュアルをよりわかりやすく、有用なものにするために、どのような書式がよいか、判断が難しかった
⇒法人内他事業所のマニュアルを入手して参考にした

- ・実際に有用なものか、効果判定が必要
⇒実際に新規にリーダー業務を行うスタッフに使用し、実施する本人と指導者に意見を聴取した

手順6:実行計画を練り直そう

- 施設環境の変更では、机上の計画のみでは、実際にどう行うのがよいか、判断が難しく、全スタッフで協力して、実際に移動してみて、よりよい方法を検討した
- 担当者以外のスタッフにも関心をもってもらうため、行う意図や進捗状況等、部会や昼礼等通じてその都度説明した
- マニュアル作成に当たって、まずは業務内容の統一化が必要であり、リーダー担当者と繰り返し確認しながら進めていった
- 全スタッフにマニュアルを配布後、読んでもらうため、その意義についてプレゼンテーションを行った

まとめ



まとめ

- 現状のフロア配置が当たり前となっていたが、見方を変えれば施設環境を変えることで改善することができるということを学んだ
- 環境を変えることで、スタッフの配置にも余裕が生まれる可能性があることに気づいた
- 施設の構造上、完全に死角をなくすことは難しく、今後も死角を効率的に見守りするための取り組みは必要
- 業務マニュアルを整備することで、業務内容を明確にでき、スタッフ教育も円滑に行えることを学んだ
- フロアリーダーという単一の役割について、マニュアル作成し、一定の効果が得られたが、今後他の業務についても同様にマニュアル作成していくことが必要と感じた

現在

- 法人で生産性向上委員会を発足
⇒ インカムの使用方法の検討、マニュアル作成中
- 事業所内で 5 S委員会発足
⇒ 整理整頓を行い、探す時間を減らす
- 介護機器の導入
⇒ ピュアット導入（入浴時間短縮） 掃除ロボ導入

ピュアット (ウルトラファインバブル)



参加した感想

- ・取り組みの順序通り行うことで、方法性が明確
- ・難しいと感じたのは、継続していくこと
⇒一度は効率性が下がることもある
- ・法人の上層部を巻き込んで進めていくのが良い
⇒上層部から発信して行うことで、法人全体で一体となって進めることができる